



愛川ふれあいの村2月の風景

平成29年2月 自然のたより

雪が降り、生き物の気配が消えたかと思えば、春一番が吹きました。暖かい春の陽気に誘われて、春の花や虫が活動を開始します。そうすると鳥も食べ物を探して、より活発に飛び回ります。一方で、暖かい日が続いているわけではないので、冬芽のままの植物もあります。まさに春への衣替えの月です。



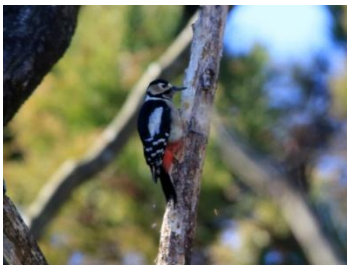
ホトケノザ



キタテハ



カントウタンポポ



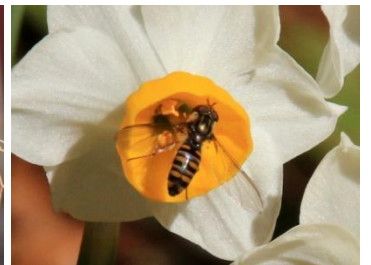
アカゲラ



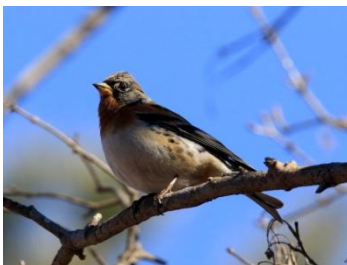
みつなごの蜜を吸う蜂



モズ



スリソの蜜を吸うみつなご



アトリ



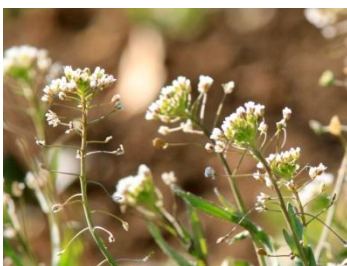
シロバナタンポポ



コブシの冬芽



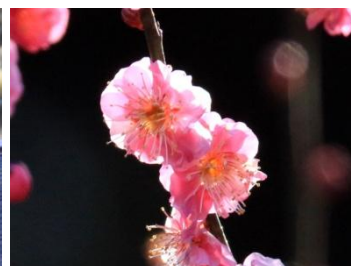
メジロの巣



ナズナ（春の七草）



雪の玉で遊ぶみつなご



紅梅



白梅

◆里山の異変◆

～野生動物が人里に下ってくる理由～

『里山』といったらどのようなイメージを持ちますか。山や田んぼなど田舎の風景を想像する方が多いのではないのでしょうか。里山とは「集落に隣接した山」のことです。

昔話の桃太郎では、おじいさんは山へ柴刈りに出かけますよね。これは近くの山に薪やキノコを採りに行ったのです。昔から里山は人の生活に深くかかわっていたこともあり、切っても切り離せない存在でした。

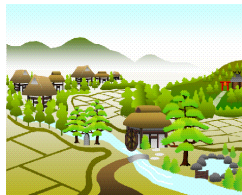
人が山に入って木を切ることで、森の中に光が入り、新たな芽が出てきます。また、鹿や猪などの動物を狩って食料にしていました。

しかし、現在では都市部に出て働く若者が増えたことや、高齢化が進んでいることによって、山を手入れできる人が少なくなってきました。手入れができなくなると、木は切られること無くどんどん成長して森の中に光が届かなくなります。光が無いと森の中の植物は光合成ができず、育ちません。結果、木の実を食べていた鹿や猪などの動物は食べ物を求めて、人里や街に下りざるを得なくなったという訳です。

木を切り過ぎることもよくないですが、何もすることが理由で生態系のバランスが崩れてしまうこともあるのです。

最近のニュースでは、野生動物だけが悪いように聞こえますが、一度人の手が入った山は、人が継続して手入れをしていかなければ、野生動物も住みづらい山となってしまいます。

人が住みやすい環境だけを考えるのではなく、人と動物が上手に付き合って生活できる環境にしていくことがこれからの私たちの課題となるでしょう。(石川)

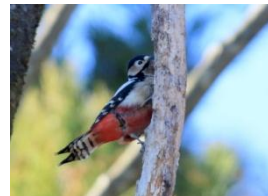


▼鳴くよりドラミング?▼

キツツキの仲間である「アカゲラ」を見たことはありますか。アカゲラは黒と白の体色をしており、下腹部が赤くなっています。

さて、鳥は一般的につがい相手の募集や縄張り争いを「さえすり」で行ないませんが、アカゲラは「ドラミング(木を叩いて音を出すこと)で行なうことが多いです。つがいで林の中にいるときに200mほどの縄張りをもって繁殖をしたり、巣作りや子育てをオスとメスが交代するときなどにもドラミングを行なうようです。

ドラミングの長さや打ち方もキツツキによって違うようなので、もし見かけたら、ドラミングの音を聴いてみてください。(大瀧)



★旬のお知らせ：フキノトウ★

これからの時季、多くの方が「花粉症」の悩みを抱えるのではないのでしょうか。実は、『フキノトウ』を食べることで花粉症を軽減させることができるようです。

フキノトウに含まれるフキノール酸という成分に血中のヒスタミン(くしゃみやかゆみを引き起こす原因)を抑制する作用があります。これによって、くしゃみやかゆみが引いていくようです。

市販薬などを買い花粉症に対抗するのではなく、普段の食事にフキノトウやヒスタミン抑制効果のある食材を摂り入れ、花粉症に対抗するのはいかがでしょうか。(鷲山)



◎三月の

注目ポイント◎

村には約七種類のサクラが植えてあり、春休みから四月いっぱいまで、さまざまなサクラを見るすることができます。

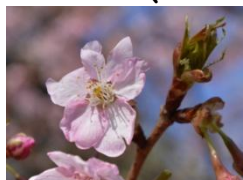
二十日過ぎからグラウンド土手のカワツザクラが咲き始め、春本番を告げています。

さて、サクラといえば全国各地で植えられており、桜の開花情報なども、ほぼ毎日ニュースで取り上げられています。

開花の情報や開花宣言は、東京では靖国神社境内にあるソメイヨシノが基準になり、五、六輪咲いた状態が開花、八割以上開いた場合が満開となります。

ちなみに、「サクラ前線」という言葉は、開花日が同じ日にある地域・地点ごとに、地図の上で結んだ線が天気図の前線と似ていることから、「前線」と呼ばれるようになったそうです。三月終わり頃、南から徐々に北上し、北海道では五月上旬に満開になり、長期間サクラを楽しむことができます。

ふれあいの村のサクラもさまざまな種類がありますので、来村された際には、ぜひ、サクラを観察してみてください。(大瀧)



発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611 HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・大瀧裕基子

文章：石川雄馬・鷲山裕・大瀧裕基子

編集：大瀧裕基子・吉田文雄・石川雄馬



愛川ふれあいの村で、検索★